

2023 年度（令和5年度）学校評価自己評価表

精華中学校区	校番 34	福山市立金江小学校
最終更新日	2024年（令和6年）2月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒は人のため・学校のため・地域のためにできることを考え、活動を工夫している。 ・学校・保護者・地域が互いに連携協力できるように、今後も各学校の情報を共有する。 ・小規模校の良さを活かしてほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識が高く、言われたことを守ろうとするだけでなく、自ら考えて行動する姿が増えてきている。 ・自分の考えを持ち、積極的に話したり書いたりするなど、自己表現力が育ちつつある。 ・地域とのかかわりが強く、中学校区に対する愛着が強い。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p>	<p>【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】</p>
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り開く子ども ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的な学び」の授業づくりに取り組み、学力の向上を図る。 ・「自己表現」「あいさつ」に取り組み、自己肯定感の向上を図る。 ・「自分で選び・決める活動」に取り組み、自己形成力の向上を図る。

III 自校

<p>ミッション</p> <p>地域に貢献する 自立した子どもの育成</p> <p>～主体的に学ぶ授業の実現～</p>		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学ぶ力	思考力・判断力・表現力	自己形成力	
<p>学校教育目標</p> <p>共に高まる たくましい子の育成</p>		めざす子ども像	1～4年	日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、自分なりの理由を付けて課題を解決している。	自分の考えを持ち、話したり書いたりして表現している。	思いやりの心を持ち、目標を達成するために、協力し合い、粘り強く努力している。
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <p>昨年度までの取組により、「自分で考え、自分から取り組もう」「自分からあいさつをしよう」「思いやりのある行動をとろう」という意識が高まってきている。自分の思いや考えを伝えようという意欲はあるが、表現方法を工夫してより分かりやすく豊かに表現するまでには至っていない。</p> <p><授業></p> <p>授業では、児童と共に単元計画を立て、めあてに沿って学びを振り返る場を持つことで、児童の学習意欲が向上し、学びの伸びを実感できるようになってきている。教科・単元のねらいや内容、系統性をしっかりと把握し、児童の現状とつないで学びを深めていくことには課題がある。</p>			5・6年	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から課題に応じた情報を選択し、根拠をもって解決している。	既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書くなどで表現している。	誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やりぬいている。
		研究	テーマ	主体的に課題を追究し、共に高まる児童の育成 ～学びの伸びを実感し、豊かに表現できる授業づくり～		
			内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○教科・単元のねらいや内容、系統性を明確にし、児童の現状とつなぐ単元づくり ○児童が主体的に学習する（自分で～する）場の設定 ○児童の実態に合わせた多様な表現方法の活用 ○学びの自覚化を図る振り返り 		
		めざす授業の姿	児童が自ら課題を発見し、見通しをもって学習に取り組み、友達と意見を交流しながら考えを深めて課題解決をし、自分の学びを実感することができる授業			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立金江小学校

年目	中期経営目標	重点分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
						□指標に係る取組状況	7/25評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状況	7/25評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	「主体的な学び」の授業づくりを進めて、学ぶ意欲と学力を向上させる。	★ 継続	主体的、協働的に学ぶことができる授業をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科・単元のねらいや内容、系統性を明確にし、児童が主体的に学習する場、共に考え合う場、学びを振り返る場を設定した授業を一人一回以上提案し、検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で考え、自分から取り組んでいる」「友達の考えを聞いたり話し合ったりして学びを深めている」児童85%以上 「学習したことを見直し、次の学習につなげている」児童80%以上 	□児童の興味・関心や疑問をもとに単元計画を立て、授業の中で友達の発表に対して感想を伝え合う場を持った。「自分で考え、自分から取り組んでいる」児童90.6%、「友達の考えを聞いたり話し合ったりして学びを深めている」児童88%	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究をしっかりと行い、「児童が考えたい」「話し合いたい」と思える必然性のある問いを設定していく。 学習したことのつながりを教師がしっかり価値づけ、児童に認識させる。 	□児童の興味・関心や疑問をもとに単元計画を立てながら、身に付けるべき知識とそれを引き出すための問いを考え、設定した。 「自分で考え、自分から取り組んでいる」児童92.7%「友達の考えを聞いたり話し合ったりして学びを深めている」児童86.5%	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 問いに対する児童の反応を考えながら、問いを精選し、児童の思考場面をより深いものにしていく。 児童の「できた」を増やしていくために、基礎学力をさらに定着させていく。
						□振り返りの視点を示し、めあてに沿って学びを振り返る場を持った。「学習したことを見直し、次の学習につなげている」児童81.4%	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 全校で毎朝15分間の読書時間を設定し読書習慣づくりをしていく。 読書デーなどでおすすめの本をクラスの友達に紹介する場を保持したり、他学年と紹介し合う場を保持りする。 	□学習のポートフォリオを作成し、児童が自分の学びを見通しながら振り返ることができるようにした。 学習の中で、既習事項を思い起こさせたり、つなげたりするような声掛けを行うことで、本時の学習で振り返りを活用できるようにした。 「学習したことを見直し、次の学習につなげている」児童82.2%	5	5	5	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの主体的な読書につながるように、国語科や各学年で身に付けたい教養と関連づけながら本を選定し、読書できる場を設定していく。 おすすめの本の紹介について、
		継続	読書活動に積極的に取り組む児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> おすすめの本をロイロノート等で紹介し合う。 読書郵便を校区で交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝記、物語など文章が主体となる本を学期に5冊以上読む児童85%以上 おすすめの本を年間5冊以上読む児童80%以上 	□読書月間を設定したり、国語科と関連付けて読書活動を行った。伝記、物語など文章が主体となる本を学期に5冊以上読む児童100%	4	4	□担任が教室におすすめの本を掲示し	□読書朝会を設定し、読んだ本の感想や主題について、自分の言葉で伝え合う機会を設けた。	5	5	5	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが読書を通して、

																			たり読書月間を設定したりした。おすすめの本を現段階で5冊以上読んでいる児童は86%						「おすすめの本を年間5冊以上読む児童」100% ◎取組を通して、読書活動に積極的に取り組む児童が増えた。						相手意識をもって紹介できるようにする。
2	教職員の資質・能力の向上を図る。		児童が主体的に自分の言葉で表現する場を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ICT等多様な表現方法を活用して考え合う場面を取り入れた授業を行い、校内・校区で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究を進め、教材研究ノートを作成し、実践し、改善につなげている教職員100% ICT等多様な表現方法を活用して考え合う場面を取り入れた授業を共有し、授業づくりに生かしている教職員100% 	<ul style="list-style-type: none"> □毎月の教材研究日では、お互いの教材研究ノートの交流を行い、授業改善につなげていった。教材研究を進め、教材研究ノートを作成し、実践し、改善につなげている教職員100% □教材研究を行う時に、どのような表現方法を用いて考え合う場を持つかということ意識して単元計画を立てた。ICT等多様な表現方法を活用して考え合う場面を取り入れた授業を共有し、授業づくりに生かしている教職員100% 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体性や学習意欲を育てる教師のコメント、励まし、声かけについて毎月検証していく。 教材研究ノートの交流と合わせてICT等多様な表現方法を活用して考え合う場面を取り入れた授業の交流も継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □毎月の教材研究日には、お互いの教材研究ノートの交流に加えて、児童ノートの振り返りへのコメントについて交流を行った。コメント表現について考えを共有することができた。 「教材研究を進め、教材研究ノートを作成し、実践し、改善につなげている教職員」100% □ICT等多様な表現方法を活用して考え合う場面を取り入れた授業を共有し、活用事例集を作成した。 「ICT等多様な表現方法を活用して考え合う場面を取り入れた授業を共有し、授業づくりに生かしている教職員」100%。 ◎教材研究ノートを毎月交流することで、教職員の資質・能力の向上を図ることができた。また、しっかり教材研究を行うことで、効果的にICTを使うことができた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの主体的な表現につながっているか検証しながら、継続して実践の交流を行っていく。 																	
2	児童・生徒の自己肯定感を高める。		生活習慣を確立し、自分から進んで行動する児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」「思いやり」に全校で取り組む。 児童主体の学校行事、係活動、委員会活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の振り返りで「自分からあいさつができた」「思いやりのある行動がとれた」児童85%以上 「目標を達成するために、自分にできることを考え行動できた」児童85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □5・6年生を中心に挨拶運動に取り組んだり、「思いやり算」を教室に掲示して意識づけたりした。毎週の振り返りで「自分からあいさつができた」児童は85.8% 「思いやりのあ 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童がどのような行動を思いやりのある行動ととらえているか自由記述させて、互いにできたところを賞賛する場をもつ。 児童と対話し、どのような学校・学級にしたいかという児童の思いが形になるよ 	<ul style="list-style-type: none"> □5・6年生を中心に、挨拶運動に取り組んだ。また、学級内で友達を助けている場面が見られた時には、全体で褒める場を設けた。 「自分からあいさつができた児童」84%「思いやりのある行動がとれた児童」85.5% □児童が自分で目標を設定し自己実現していく力を育成 	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自己肯定感を高めるために、自分から進んで行動している児童を教師や児童間で評価・価値づけをする場を設ける。 児童同士で互いの良さや頑張 																	

					る行動がとれた」児童は 84.6% □自分で目標を設定し、そのためにどんなことをしていくのか具体的な行動目標を考え、定期的に振り返りを行った。「目標を達成するために、自分にできることを考え行動できた」児童 84.8%	う、評価・価値づけを行っていく。	するために、毎週「学習・生活・思いやり」の観点で振り返りを書き、児童面談をしたり、ノートにコメントを書いたりしてフィードバックした。 □児童会や委員会活動では、テーマや目標を決めて、取組を行った。「目標を達成するために、自分にできることを考え行動できた児童」 84.8% ◎思いやりを持ち、自分から進んで行動する児童が増えてきている。			りを認め合う場や、自分自身の良さや頑張りを認識できる場を設定する。
--	--	--	--	--	---	------------------	--	--	--	-----------------------------------

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。